



時宗布教伝道研究所研究員小田義宗

今回はインド八大聖地の一つで日本人には馴染み深い『祇園精舎（サヘット）』とその近くにある『舎衛城（マヘット）』のお話です。

この誰もが仏教的感慨をよせる祇園精舎（写真下）は、お釈迦様が生涯最も多く安吾（雨季の間、托鉢行脚をやめて建物の中で修学すること）された北インドの拠点です。ここでは我々時宗が拠り所とする重要な経典「阿弥陀経」が説かれ、また我が子を亡くした母の物語「七粒の芥子の



種」などの数々の仏教説話が残る地でもあります。

また舎衛城の方は、後にお釈迦様の生まれ故郷であるシャークヤ国を滅ぼしたコーサラ国（お釈迦様の時代のインド十六大国の中の一つ）の都があつた

た場所です。城壁に囲まれた一大都市であつたようですが、

インドのその他の遺跡群同様まだまだその一部しか発掘は進んでいません。ちなみに先ほどの祇園精舎は、この城下町の近郊に位置します。時宗宗祖一遍上人の時代でいう、鎌倉が舎衛城、片瀬の浜が祇園精舎だと連想していただければ良いかと思えます。

現在のこれらの地はシユラバステイと呼ばれ、インド北部U・P州の州都であるラクノウから北東へわずか約一七〇キロほどしか離れていません。そのため外国からの参拝者も多く、そのお釈迦様がお説法された場所にて、二五〇〇年前に思いをはせながらお勤めをすることが出来ました。



◆ インドの車・トラック

インドでは意外と？日本車をよく見かけることができませんが、そのほとんどは日本と違いマニュアル車です。それはインド人が、機械に対して構造が『単純』で壊れないことを好むからだそうです。で

はインド国産メーカーはあるのかと言いますと、上の写真の「TATA」社が有名です。新車で三十万円を切るものもあるそうですが、プラスチックを多用しているためインド人自身も敬遠するそうです。しかし大型車になると、その「TATA」社などの国産メーカーがシェアを独占しており、特に「TATA」財閥は車のみならず、インドのインフラのほぼ全てをその系列企業で占めているそうです。

ところでその大型車、下の写真のように皆さん一様にド派手な飾り付けをしています。古今東西、トラック野郎は派手な出で立ちで長距離を快適に走り抜けて…と思いきや、インドのトラックの排気量は



二〇〇〇ccほどしかなく、また明らかに積載量オーバークの車両が多いことと道路事情も相まって、快適どころか、何度か路上で豪快に転倒しているトラックを見ることができました。